

## 社会学部教育課程編成の方針

### 教育課程の編成と特色

#### 社会学科

社会学科の教育課程は、学士課程における修業年限4年間を「導入期」「形成期」「完成期」の3期に区分し編成している。各期のねらいは以下のとおりである。

- ・導入期（発見）は、主に「学びの精神」、「学びの技法（基礎演習）」、言語教育科目及び学部基幹科目（社会学原論1・2、社会調査法1・2）で構成し、4年間の学びに必要なスタディ・スキルの基礎を身につける。具体的には、学部基幹科目を学ぶことによって、社会に生起している問題を見出し、社会学及び関連領域の視点から整理、把握できる力を身につける。なお、NEXUSプログラムでは、標準0.5年間〔1学期間〕の日本語集中履修期間に加え、言語Aおよび言語Bにおける日本語、ならびに平易な日本語を用いて実施する「学びの精神」の履修をとおして、学ぶための姿勢と基礎的な知識・技法を身につける。
- ・形成期（分析）は、明確な目標、目的意識をもって、講義や留学などのさまざまな学びから自己実現につながる知識を習得する。また、学際的な学びの機会も多様に広がる。具体的には、社会調査・ソーシャルデータサイエンス系科目および演習科目（ゼミ）で、実証的な調査やデータ収集を行い、得られたデータが社会・文化・メディアの各方面にどのような意味を持つか考察し、説明できる力を養う。また、多彩な専門講義科目（領域横断科目・隣接領域科目・学科専門科目など）を履修することで、各分野の研究成果や分析方法などを幅広く学ぶ。さらに、学部英語科目を履修することで、英語で社会的な分析方法を学ぶ。
- ・完成期（提言）は、学部の特徴を活かす演習科目を選択し、4年間のまとめをおこなう。将来的な自己実現を見据え、職業の選択と人生の展望を明確にする。具体的には、4年間の研究成果を実践的な提言に導くことを目的として、「卒業論文」と「卒業研究」の2つのコースいずれかを履修する。「卒業論文」では自分の問題意識を深めて自ら立てた問題を分析・考察し、その成果を学術論文としてまとめる。「卒業研究」は学科がカバーする研究領域を広く修得し、レポートとしてまとめる。

#### 現代文化学科

現代文化学科の教育課程は、学士課程における修業年限4年間を「導入期」「形成期」「完成期」の3期に区分し編成している。各期のねらいは以下のとおりである。

- ・導入期（発見）は、主に「学びの精神」、「学びの技法（基礎演習）」、言語教育科目及び学部基幹科目（社会学原論1・2、社会調査法1・2）で構成し、4年間の学びに必要なスタディ・スキルの基礎を身につける。具体的には、学部基幹科目を学ぶことによって、社会に生起している問題を見出し、社会学及び関連領域の視点から整理、把握できる力を身につける。なお、NEXUS

プログラムでは、標準 0.5 年間〔1 学期間〕の日本語集中履修期間に加え、言語 A および言語 B における日本語、ならびに平易な日本語を用いて実施する「学びの精神」の履修をとおして、学ぶための姿勢と基礎的な知識・技法を身につける。

- ・形成期（分析）は、明確な目標、目的意識をもって、講義や留学などのさまざまな学びから自己実現につながる知識を習得する。また、学際的な学びの機会も多様に広がる。具体的には、社会調査・ソーシャルデータサイエンス系科目および演習科目（ゼミ）で、実証的な調査やデータ収集を行い、得られたデータが社会・文化・メディアの各方面にどのような意味を持つか考察し、説明できる力を養う。また、多彩な専門講義科目（領域横断科目・隣接領域科目・学科専門科目など）を履修することで、各分野の研究成果や分析方法などを幅広く学ぶ。さらに、学部英語科目を履修することで、英語で社会学的な分析方法を学ぶ。
- ・完成期（提言）は、学部の特徴を活かす演習科目を選択し、4 年間のまとめをおこなう。将来的な自己実現を見据え、職業の選択と人生の展望を明確にする。具体的には、4 年間の研究成果を実践的な提言に導くことを目的として、「卒業論文」と「卒業研究」の2つのコースいずれかを履修する。「卒業論文」では自分の問題意識を深めて自ら立てた問題を分析・考察し、その成果を学術論文としてまとめる。「卒業研究」は学科がカバーする研究領域を広く修得し、レポートとしてまとめる。

#### メディア社会学科

メディア社会学科の教育課程は、学士課程における修業年限4年間を「導入期」「形成期」「完成期」の3期に区分し編成している。各期のねらいは以下のとおりである。

- ・導入期（発見）は、主に「学びの精神」、「学びの技法（基礎演習）」、言語教育科目及び学部基幹科目（社会学原論 1・2、社会調査法 1・2）で構成し、4 年間の学びに必要なスタディ・スキルの基礎を身につける。具体的には、学部基幹科目を学ぶことによって、社会に生起している問題を見出し、社会学及び関連領域の視点から整理、把握できる力を身につける。なお、NEXUS プログラムでは、標準 0.5 年間〔1 学期間〕の日本語集中履修期間に加え、言語 A および言語 B における日本語、ならびに平易な日本語を用いて実施する「学びの精神」の履修をとおして、学ぶための姿勢と基礎的な知識・技法を身につける。
- ・形成期（分析）は、明確な目標、目的意識をもって、講義や留学などのさまざまな学びから自己実現につながる知識を習得する。また、学際的な学びの機会も多様に広がる。具体的には、社会調査・ソーシャルデータサイエンス系科目および演習科目（ゼミ）で、実証的な調査やデータ収集を行い、得られたデータが社会・文化・メディアの各方面にどのような意味を持つか考察し、説明できる力を養う。また、多彩な専門講義科目（領域横断科目・隣接領域科目・学科専門科目など）を履修することで、各分野の研究成果や分析方法などを幅広く学ぶ。さらに、学部英語科目を履修することで、英語で社会学的な分析方法を学ぶ。
- ・完成期（提言）は、学部の特徴を活かす演習科目を選択し、4 年間のまとめをおこなう。将来的な自己実現を見据え、職業の選択と人生の展望を明確にする。具体的には、4 年間の研究成果

を学問の世界にとどめることなく、実践的な提言に導くことを目的として、「卒業論文」と「卒業研究」の2つのコースいずれかを履修する。「卒業論文」では自分の問題意識を深めて自ら立てた問題を分析・考察し、その成果を学術論文としてまとめる。「卒業研究」は学科がカバーする研究領域を広く修得し、レポートとしてまとめる。

#### 国際社会コース

国際社会コースは、グローバルな経済において活躍できる職業人としてだけでなく、家族・地域など人生のさまざまな場面において、今後予想される不確実な変化に積極的に適応し、地球社会に貢献できるグローバルな教養人・市民の育成を目指す。

国際社会コースの教育課程は、学士課程における修業年限4年間に「導入期」「形成期」「完成期」の3期に区分し編成している。各期のねらいは以下のとおりである。

- ・導入期（発見）は、主に「学びの精神」、「学びの技法（基礎演習）」、言語教育科目及び学部基幹科目（社会学原論1・2、社会調査法1・2）で構成し、4年間の学びに必要なスタディ・スキルの基礎を身につける。具体的には、学部基幹科目を学ぶことによって、社会に生起している問題を見出し、社会学及び関連領域の視点から整理、把握できる力を身につける。
- ・形成期（分析）は、明確な目標、目的意識をもって、講義や留学などのさまざまな学びから自己実現につながる知識を習得する。また、学際的な学びの機会も多様に広がる。具体的には、社会調査・ソーシャルデータサイエンス系科目および演習科目（ゼミ）で、実証的な調査やデータ収集を行い、得られたデータが社会・文化・メディアの各方面にどのような意味を持つか考察し、説明できる力を養う。また、国際社会コース指定科目（領域横断科目・隣接領域科目・学科専門科目など）を履修することで、各分野の研究成果や分析方法などを幅広く学ぶ。さらに、20名以下の少人数クラスで英語を読む、書く、聞く、話す、の4技能を同時並行的に展開する学部英語科目を履修することで、アカデミック英語の運用能力を高めると同時に、英語で社会的な分析方法を学ぶ。さらに、英語で展開する専門科目「Sociological Studies (A-D)」を履修することで、さらに高度の英語運用能力とともに、国際社会への分析視点を養う。
- ・完成期（提言）は、学部の特徴を活かす演習科目を選択し、4年間のまとめをおこなう。将来的な自己実現を見据え、職業の選択と人生の展望を明確にする。具体的には、4年間の研究成果を実践的な提言に導くことを目的として、「卒業論文」と「卒業研究」の2つのコースいずれかを履修する。「卒業論文」では自分の問題意識を深めて自ら立てた問題を分析・考察し、その成果を学術論文としてまとめる。「卒業研究」は学科がカバーする研究領域を広く修得し、レポートとしてまとめる。

#### ソーシャルデータサイエンス (SDS) コース

SDS コースは、社会全体のデジタル化、データ化、人工知能を始めとする技術革新などの爆発的進展を踏まえ、社会学部が展開する社会学、社会調査法の基礎・発展とともに、ダイナミックに展開しているデータサイエンスの先進的理論・方法を修得することにより、Civic Tech（市民自身が、テクノロジーを活用して、行政サービスの問題や社会課題を解決する取り組み）をはじめ

め、現代社会の可能性と課題に積極的に取り組む 21 世紀の教養人を育成することを目指す。SDS コースの教育課程は、学士課程における修業年限4年間を「導入期」「形成期」「完成期」の3期に区分し編成している。各期のねらいは以下のとおりである。

- ・導入期（発見）は、主に「学びの精神」、「学びの技法（基礎演習）」、言語教育科目及び学部基幹科目（社会学原論 1・2、社会調査法 1・2）で構成し、4年間の学びに必要なスタディ・スキルの基礎を身につける。具体的には、学部基幹科目を学ぶことによって、社会に生起している問題を見出し、社会学及び関連領域の視点から整理、把握できる力を身につける。さらに、「ソーシャルデータサイエンス概論」「プログラミング基礎実習 A」により、ソーシャルデータサイエンスの基盤となる理論、方法、プログラミングの基礎を修得する。
- ・形成期（分析）は、明確な目標、目的意識をもって、講義、演習、留学などのさまざまな学びから自己実現につながる知識を習得する。また、学際的な学びの機会も多様に広がる。具体的には、社会調査・ソーシャルデータサイエンス系科目および演習科目（ゼミ）で、情報ネットワーク社会、AI 社会として社会を捉える視座を涵養するとともに、実証的な調査やデータ収集を行い、大規模なソーシャルデータを含め、多様なデータにアプローチする理論、方法を修得し、社会・文化・メディアの各方面にどのような意味を持つか考察し、説明できる力を養う。さらに、学部英語科目を履修することで、英語で社会的な分析方法を学ぶ。
- ・完成期（提言）は、学部の特徴を活かす演習科目を選択し、4年間のまとめをおこなう。将来的な自己実現を見据え、職業の選択と人生の展望を明確にする。具体的には、4年間の研究成果を実践的な提言に導くことを目的として、「卒業論文」に取り組み、自分の問題意識を深めて自ら立てた問題を分析・考察し、その成果を学術論文としてまとめる。